

夜の祭りに出没すると噂されている高橋夫婦です。

叡電の終電時刻直前から始まる由岐神社御旅所での神事に行きました。

去年は電車で行ったため、早めに帰らざるを得ず、帰った後に御旅所で行われる神事に後ろ髪が引かれる思いでした。今年は気合いを入れ、岡崎の自宅から自転車で登りました。1時間20分かかりました。

鞍馬小の前に自転車を置き、車の通らない鞍馬街道を歩き、やがて毎年恒例の見物客を一方通行でグルグルと回らせるエンドレス・ループに合流しました。丁度、鞍馬寺門前で神輿の出御に出くわし、幸運にも見物客の行列の進行が一時的に止まりました。気が荒れていて警官に食ってかかる人が多く、また、若い白人の女性がドンドンと割り込みしてきて去年よりも殺伐としていました。割り込みに国境は無いようです。



くらま温泉方向への神輿巡幸を追うことが許されていなかったの、仕方なく御旅所へ向かいました。

鳥居から入った正面の好位置に陣取りをしようとしていたら、役員のひとが「ここは神楽が入ってくるから空けて下さい。」と言われました。「あっ、ここでも巫女さんが来て、リンリンと鈴を鳴らしてお神楽を舞うんだ！」と早合点。

しばらくしてから、巨大な松明が運ばれて来て、御旅所の道を挟んだ向かい側に立て掛けられました。

『神楽』とは巨大な松明を『神楽松明』と呼ぶのでした。



神楽松明の設置の前に、鞍馬駅方向から太鼓の音が聞こえて来てこちらへ向かってくるのがわかります。くらま温泉の前まで登って巡幸して来てから戻ってきたお神輿です。



神輿行列は御旅所をあっさりと通過して貴船口方向へ行っていました。

11 時頃になると御旅所のあたりに地元の方や見物客が増え始めました。一旦、貴船口方向へ下って行ったお神輿が戻って近づいて来るのが太鼓の音でわかります。



女性が叩く太鼓の音が結構、良いリズム感で響きます。

そして、いよいよお神輿の宮入。お神輿の振りや差し上げがあまりにも激しいので、その時はブレまくって写真が撮れません。振りや差し上げの最中、神輿に乗っている鎧武者はひたすら耐えます。



2基のお神輿の鎮座が無事に完了すると、お神輿の前で若衆が達成感を100%爆発させて「サイレイヤサイリョウ」と唱えながら手拍子で歓喜の踊りを始めます。周囲の観衆も興奮もピークに向かいます。



最後にもう一度「サイレイヤサイリョウ」と絶叫するや否や、全員、蜘蛛の子を散らすように檀上から飛び降りて走り去りました。



この一瞬でのフェイドアウトが良いですね。
動から静へ移り、祝詞奏上。



時刻はもう0時近く。終電は出た筈なのにアレレレ？電車が走っていました。お客さんもまばらながらも乗っていました。事前の告知はありませんでしたが臨時電車の増発があったようです。それがわかっていたら、去年、見れたのに・・・。

これで御開きかと思っていきましたが、急に人波が去る気配も無く、神楽松明を担いで境内を回る儀式が始まりました。



何回か周回し、その後、焚火で炙ったスルメとお酒が関係者に振る舞われました。どうやら、本来はこれで終了のようです。

しかし、実際は少し、ひとが減りましたが、お偉いさんや世話人からのはっきりとした終了の挨拶はなく、引き続き太鼓が叩かれます。女の子や子供も加った太鼓の練習会を **BGM** に直会の如く飲んだりしているうちに神楽松明の周回が再開されました。

時間が経つにつれ徐々にひとが減りました。太鼓を叩くひと減ったのか、それとも叩くのに飽きたのか、途切れてだらけた雰囲気になると、年長者が「はよ太鼓打たんかい！」と言い出したりしていました。



いよいよ、神楽松明の最後の1本が燃え尽きようとしています。もう1時近く。



とうとう、最後の1本も倒されました。流れ解散なのか、いつが終わりなのかはつきりしなかった神事でした。切りが無いので帰途に着きました。夜の鞍馬街道を惰力に任せて一気に走り下り、自宅には1時間を切って到着。ああ、長い一日でした。

(会員 高橋 浩次 & 直子)